慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	室伏高信著 ギルド社会主義第一巻
Sub Title	
Author	堀江, 帰一
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1920
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.14, No.9 (1920. 9) ,p.1333(149)- 1334(150)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	新刊紹介
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19200901-0149

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

を以つてする。自己と何等利害を有たない職分に關する部分に對しては是に容喙する權利を持たぬ。唯自己の關係する部分に對してのみ議決權を持つ。故に「一人一票」と云ふ代りに「利害關係の數だけの投票權、即ち一利害に對して一票」と云ふことになる。（一一五頁）

以上大體に於いてコールが所論の根本を説明し得たと見做すことが出來やう。更に氏が唯物史觀を排して人間の意思がなければ發展は生じないと云ふ立場から、（一四六頁以下）「社會組織の目的は物質的能率のみではなく其のすべての組成員の充分なる自己表現にある。」（二〇八頁）と推定し、こゝに一の社會體系を描かんとした試みが即ち本書一卷である。

後の著述"Chaos and Order in Industry."は上述の如き社會に對する觀念の上に立つて現代産業狀態を批判し、是が救濟策を提供したものと

見做すことが出來るだらう。其一部分はすでにNew Statesman, Daily Herald, Venturer, Guildsman其の他に發表したものであるが、一卷を通じて全然統一を缺いて居る譯ではない。即ち第一章スラトイキの原因、第二章産業の動機の二章は現在産業制度の内部に於ける缺陷を指摘し、吾人が産業に從事する動機は貪慾や恐怖からではなく、自由奉仕でなければならないことを力説して居る。更に第三章利益分配の改造に於て戰時中の政策を批評し第四章にてギルド制度に依る解釋を論じ、次第にギルド社會主義の優勢に赴くことを敍し、第五章以下第九章迄は重に産業の生産的方面の傾向を論じて居る。即ち炭鑛、鐵道、機械、造船、紡績、建築等に於ける實際問題を論じ、第十章及び第十一章は分配及び消費の方面を説明して居る。最後の章に於いて著者は眞の階級爭鬪は勞働と資本との間ではなくして、「今日の産業界並びに社會に於ける眞の罅隙は一方筋肉的精神的の兩方面の勞働者と、他方貸主や金持と云ふやうな者との間の罅隙である。」（二四五頁）即ち廣義の勞働者と所謂有産者階級との對立であるとして居る。是等すべての解決方法はすでに前述したやうに、ギルドである。著者の此の思想を更に知らんと欲する者は劈頭に掲げた「勞働の世界」及び「産業自治」の二著を繙かなければならない。本書には更に次ぎの二個の附錄が添へてある。一は"Memorandum on the Causes of and Remedies for Labour Unrest, submitted to the National Industrial Conference by the Trade Union Representatives."であつて、他は"The Miner's Bill-Select Provsions."である。

以上の紹介は餘りに概略であるが、略々本書が如何なるものであるかを窺ふには足りると思ふ。要するに著者が最近の理論的方面を知らんと欲する者には「社會學説」を、其の政策的方面に興味を持たれる者には「産業界の混亂と秩序」を一讀せんことを薦むるものである。

（野村兼太郎）

室伏高信氏著　**ギルド社會主義第一卷**

四六版二八六頁假裝　定價金壹圓九拾錢

ギルド社會主義が英國に於て唱道されたのは近年であるが如く、英國から日本に傳つたのも最近の事である。然し其研究なり、紹介なりは甚だ盛であつて、既にコール其他のギルド社會主義に關する著作で我國に飜譯され、抄譯されたものは、三四に止まらぬやうである。室伏氏は從來此社會主義を最も深く又廣く研究された一人であつて、氏の主幹する月刊雜誌「批評」には屢々氏の筆に成る紹介的論文が載せられて居つた。本書は從來の斷片的紹介から綜合的紹介

に進み、更に單純なる紹介に止まらず、批評に入らうとする目的を以て、著作されたやうに見受けられる。第一卷は簡單な序論の外に、ギルド社會主義の創生と同主義の建設に就ての二章から成り、創生編に於ては、オーウエン、モーリスにまで遡り、集産主義や、新社會主義とギルド社會主義との關係を説明し、建設編に於てはギルドが如何にして構成されるかギルド社會主義の實際運動は如何なる狀態に居るかと云ふ問題を説明して居る。

室伏氏の新著は幾冊を以て完結するものであるか、之を知らない。第一卷だけでは、未完成品たるを免かれないが、從來我國に飜譯紹介されたギルド社會主義の研究で、比較的纒まつて居るのは、コールの「産業に於ける自治」位のものであらう。其れでも如何にして此主義が起つたものであるか、他の社會主義と如何なる關係があるかと云ふやうな歴史的研究に缺けて居る。さうすれば邦文で此新思想を徹底的に研究しやうとする人々に取つては、室伏氏の新著は缺く可からざるものと云はざるを得ない。行文は流石に專門家の手に成れることゝて、頗る流暢であつて些の澁滯を認めず、引證亦極めて博く、進んでギルド社會主義を研究しやうと志す人に大なる援助を與へる。室伏氏が新思想の紹介に努力せられる熱心は吾人の多とする所である。

（堀江　歸一）

坂口昂博士著　**概觀世界史潮**

菊版七七六頁定價金五圓五十錢
東京岩波書店發行

坂口博士が本書を世に問へる動機は、其の序文に言へるが如く、世界の改造期に際會する現下の讀書界に取りて特に缺乏せる或るものを滿す可き必要の切實に感ぜられたるに在り。即ち正確なる知識に基きたる世界史の敎養是なり。博士は世態事變の眞相にして誤解せられ、談論屢々架空に馳せて事實の正鵠を失し易く、文壇社交共に尙ほ未だ大なる時代に照應する光彩を發揮するに至らざるは、實に如上の缺陷與つて頗る大なるものありと做せり。而して博士は遠く希臘の國民的文明より、近く世界戰役及び世界改造に至る世界史を特に文化的潮流の裡に且つ辿り且つ眺めんとせるなり。洵に我が知識階級が刻下の渇を醫す可き好著にして「多年模範的文化典籍の上梓に從事」せる岩波書店は茲に又た其の出版界に對する誇の一を加へたり。

斯くの如く長大なる時代を貫き廣大なる地域に亘れる概觀の全般を通じて、之を檢察せんことは吾人の到底企及し得る所にあらず、唯だ吾人は博士が該博深遠なる研究に信頼して自家の知見を啓かんとする者なるが、今些か此の大著の一部に對する二三の私見を披瀝し、謹んで博士の敎示を乞はんとす。乃ち吾人は第十七講「十七八世紀に於ける思潮」に就きて觀るに、先づ甚だ些末なることながら博士は

ホッブスの著書は因つて一名「レヴィアザン」（一六五一年版行）と名づけられて居る（三六六頁）。

と記されたるが Leviathan は本題にして、一名之れを The Matter, Forme, and Power of A Common-wealth Ecclesiastical and Civil. と名づけられたるなり。其の發音も「リヴァイアザン」なる可し。更らに博士は Hobbes に關し

上述の彼の著書は即ちこの民主的革命に對する一個の抗議なり（同頁）。

と論斷せり。Hobbes が君主制に對して多大なる同情を有し、議會の主權を否認したるは明かなる事實なるも、彼れが中樞の學説は單に法律の制限を受くることなき不可爭不可分なる至高